

東朋会ミニ通信

発行者 香川 修司
 連絡先 事務局 加藤 光義
 0467-73-0515
 編集者 小倉進・島津晃

10月4日、西伊豆で
第4回総会開催!



理事長 香川 修司

東朋会が一般財団法人として再発足して、3年が経過しました。

今年度の事業活動では、理事役員が相次いで入院や手術を受たり、又、家族の介護で活動を休止する人が多く出ました。実務をそれぞれ分担し、協力して事業方針の実現に努められた事に感謝をしたいと思います。

東朋会を取巻く環境は

ヨーロッパの財政・金融不安に端を発した世界的な不況の中で、中国も成長が鈍化、領土問題で反日運動が暴徒化、新興国も食料やエネルギー資源のインフレから庶民の不満が高まっています。特にアラブ世界では民衆革命となり、政権交代やシリア

ア内戦が起き、不安定な状況になっていきます。

日本でも東日本大震災以来、復興の遅れと急激な円高により、日本経済の低迷が続く中、三党合意して、消費税増税法案が可決されました。将来の生活不安が大きくなる中、与野党の政党への不信感から、領土問題と相まって、強権的な政党・政権への流れが出てきています。

又、東日本大震災の反省から、今後の大震災の想定が見直され、南海トラフ震災では32万人の死者という想定は多くの市民に衝撃が走りました。原発のリスクも明らかになるにつれ、原発の運動も大きくなっています。

身近では、私達の出身会社も災害と不況の中で、事業の縮小、移転を迫られ、特にセイコーエプソンの福島地区では工場閉鎖に伴い早期退職が174名出るなど、後輩にとつて厳しい1年となりました。又、相模事業所の被

災による事業の移転により東洋通信機の面影も薄くなりました。

事業活動の評価とまとめ

このような状況の中で、東朋会の事業活動を以下のよう

1. 会員の拡大活動ではエプソントヨコムの現役組合員の電機共済の継続加入にともなう新入会員や早期退職者を合わせて59名を受け入れるとともに、今年度初めて移動無線事業部OBへの呼び掛けや「集い」を支援し、年間であわせて91名の入会があり、現在正会員は450名を越える事ができました。
2. 財政運営では資金運用の改善を図るなど、財政収支を改善する事。財政収支も資金運用の改善(運用益60万円増、利回1.82%)などで赤字幅を457万→△395万円と改善できました。
3. 福祉事業での災害対策では「高齢者のための防災フェア」を災害対策の多くのニーズや話題の中で配布できました。プロジェクトチームで、政府や多くの自治体の防災資料を参考に討議し、自主防災で役立つように見やす

いパンフに編集しました。

4. クラブハウスの建替課題では、用途地域、固定資産税水準、老朽化と耐震性の調査が済み、具体的計画の段階に進めたいと考えます。

5. 地域支援事業では福島拠点事務所の設立の準備が始まり、予算化を図りました。従来からの行事活動については水準を維持しました。

以上のような事業活動の評価とまとめの中から新年度の事業方針を着実に実現していきたいと考えます。皆さんの参加と協力をお願いします。



会員情報

459名(9月10日現在)

新会員

- 青柳勇二
- 小泉誠二
- 村上新一

慶事

- 「80才」傘寿 手塚静江
- 更にご活躍 下さい

訃報 北川博孝 (6/23)
 今村 孝 (8/31)
 謹んでお悔やみ申し上げます

東朋会カレンダー 10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月 ※□がお休みです

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

『お知らせ』

ー電機連合健康共済の取扱いー
 セイコーエプソン労組から、健康共済の取扱いを東朋会が業務を引き継ぐことになりました。従いまして、健康共済の申請・手続きが必要な方は東朋会事務局までご連絡下さい。
 東朋会事務所 0467-73-0515

立花宗茂と武士道(2)

小柳 隆夫



立花宗茂

虎退治

華も実もある戦国一の義勇の将といわれた立花宗茂、韓国のソウルへ觀光で行ったときの事です。バスガイドさんの話が、文禄・慶長の役の話になった時に、彼女が、「加藤清正・立花宗茂・小西行長・島津義弘などが攻めてきた」と説明がありました。有名な大名の中で、立花宗茂の名前がありました。どんな人物か、朝鮮ではどんな戦いをしたのか。関が原の合戦で西軍であったのに、何故、再び大名に復帰できたか。それから、興味が沸いてきました。調べれば調べるほど、すばらしい人物である事が判りました。

筑後柳川十三万石大名の彼は、僅かな兵力で多くの兵力と戦い、一度も負けておらず、軍事的才能は素晴

らしいのがあります。およそ三千人の軍勢で国内では秋月種実、島津忠長、京極高次、鍋島直茂らと戦い、朝鮮の役では碧蹄館の戦いで先陣となつて、ウンカのようにやつて来る明国・朝鮮連合軍十五万の大軍を打ち破り、蔚山(うるさん)城では明国・朝鮮連合軍五万を散らし、籠城中の加藤清正を救援し、露梁津の海戦では、軍船が針ねずみの様になりながらも、朝鮮海軍の名将李舜臣を倒し、小西行長の救出をしている。

細やかな心配り

彼は、「戦は兵数の多少ではない、一和にまとまった兵でなくては、どれほど大人数でも勝利は得られない。」と言っている。また、私利私欲では動かない。関が原の戦いの時、徳川家康から五十万石で誘いを受けても、大名に取立ててくれた秀吉への恩から躊躇なく大嫌いな石田三成らの豊臣方に付

きました。関が原の合戦のとき京極高次の守る大津城を攻め落としますが、その日、関が原では西軍が負け、宗茂は大阪城へ引き揚げま

す。その途中、三成軍が、勢田の唐橋を焼き落とそうとした時、「橋がないと、庶民が難儀するから」と止めさせました。のちに、この話を聞いた徳川家康は、「聞きしにまさる細やかな心配りよ、立花宗茂は華も実もある武将だ」といつて感心した。大阪城では、徹底抗戦を訴えますが聞き入れられず、柳川へ引き揚げます。

将が一番の実践者

柳川では、攻めてきた三万の鍋島軍と戦いますが、加藤清正の仲介で城を明け渡し、浪人となります。城を出るとき、大勢の庄屋や百姓達が別れを惜しみ号泣しました。そして、わずかな家臣を引きつれ旅に出ます。宗茂34歳でした。この旅では、家臣たちが人足や虚無僧などとして働いて稼ぎ、また、元家臣からの仕送りで生計を立てました。この話を聞いた、將軍徳川秀忠は感激し、立花宗茂を御書院番頭(將軍の警護の役)五千石で召抱えることにしました。徳川家康に弓を引いた宗茂が、三河以来の直参大名より信頼されました。その後、

奥州棚倉一万石の城主に任ぜられ、大名として復活を果たしました。その後、柳川の城主であった田中忠政が死ぬと、秀忠は田中家を取り潰し、そのあとの柳川十三万石を宗茂に与えました。將軍秀忠から、任ぜられた時、「家臣が喜びます」と場所をはばからず男泣きをした。関が原の合戦で城を無くして以来二十年後、もとの城へ復帰しました。多くの譜代の大名ですら、取り潰されている中で、西軍のしかも徹底抗戦した大名が、元の城に復帰する奇跡を起こしました。そして九州各地から、元家臣を呼び寄せました。そのご、伊達政宗などと相伴衆(將軍の相談相手)として、秀忠・家光に大切にされました。立花家はその後、明治まで徳川家に忠義を尽くしてきました。本物の武士道とは、死ぬことにあらず、戦になつたら勝つことであり、常に正義を実践し、将がその一番の実践者でなければなりません。このはなしは、ホームページ「立花宗茂と武士道」で紹介しています。

⑤高齢者の運転特性

高齢運転者が事故を起こす率が高くなっています。▼その傾向は自動車等の運転中に高齢者が加害者となる事故が増加し、事故の傾向として、出会い頭衝突・右折時衝突等。法令違反では、一時不停止・信号無視・優先通行妨害等の割合が高く、死亡事故の割合も高くなっています。▼高齢運転者の主な事故原因では、相手の車を見落としてしまふ。相手の速度を間違つて認識してしまふ。信号・標識を見落としてしまふ。機敏で巧みな行動がまだ出来るという錯覚がある。気付いてから行動するまでに時間が掛かる。▼高齢運転者は、様々な情報を収集し、対応することが苦手になつていて、若い時の経験にとらわれる傾向にあります。そして、疲労時の回復力が低下していることもその表れです。(光)

車社会と高齢者

高齢者、もう一度勧める 右・左!

紹介して